

はじめに

2010年度（平成22年度）の年報をお届けするあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

千葉県は成田国際空港、千葉港という国内外の玄関を有し、新型インフルエンザ、SARS、ウエストナイル熱などの輸入感染症はじめ、外来衛生害虫の侵入など、これら感染症などから県民を守ることは重要な業務です。

また、首都圏に位置し、全国6位の620万の県民が生活しており、食品に由来する健康被害や、無承認無許可医薬品の混在、違法ドラッグなどによる健康被害発生の可能性も低くありません。

そのような中、本研究所では、感染症をはじめ、食中毒、医薬品、飲料水、毒劇物などの県民の健康危機に対応すべく、公衆衛生の科学的・技術的中核として、多岐にわたる試験・検査を実施し、成果を上げてまいりました。

加えて、平成20年度から開始されたメタボリック健診（特定健診・特定保健指導）のデータ解析、鴨川市においておたっしや調査として疫学調査を行うなど、生活習慣病対策にも寄与すべき調査研究を行っています。

平成23年3月11日に東日本大震災が発生しました。亡くなられた方には、哀悼の意を表すとともに、一日にも早い復興を願わずにはおられません。

また、同日発生した、福島第一原発事故における放射能問題に関しては、今後も引き続き、多くの不安を抱える県民のみなさんに、安全、安心を提供するよう励まなければなりません。

当研究所においては、7月30日にモダンメディアの取材を受け、日々の業務を広く紹介していただきました。また、10月1日には感染症法による、厚生労働省、警察庁合同の立ち入り検査を受け、あらためて適正な業務の遂行のため、日常業務を見つめなおす機会を得ました。

当研究所は、県が平成22年4月に策定した「輝け！ちば元気プラン」（総合計画）において、健康危機事案に対する対応拠点として位置づけられています。

めざましい進歩を遂げる科学技術に対応し、活用することで職員一同与えられた職責を果たしていく所存です。

このたび、平成22年度の業務実績がまとまりました。当研究所の業績が行政の施策に生かされ、県民の健康の一助になれば幸いと存じます。

平成24年1月

千葉県衛生研究所長

江口 弘久